

七大戦への抱負

男子主将 諸田直樹

女子主将 小川明音

主将を務めております、諸田直樹と申します。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当たり前前に練習することさえままならなかった一年間でしたが、OBOGの皆様の多大なご支援によって、無事東北インカレ出場や日々の練習場所の確保をすることができました。心より感謝申し上げます。

昨年の4月、七大戦大阪大会の中止が発表され、多くの部員が埋め合わせできないような喪失感と悔しさに涙を流しました。あの日から約1年、パートキャプテンたちと共に、七大戦京都大会を目標に部をまとめて参りました。その道程は険しく、延べ半年に及ぶ部活動停止期間や大会参加が認められないなど、苦難の連続でありました。ですがその中でも腐ることなく、河原での練習やオンラインでの補強会、利府や岩沼など外部施設の活用をしながら試行錯誤して参りました。そして、そのような非常に苦しい環境の中でも今シーズンすでに数多くのPB更新や部記録更新、そして全カレ標準突破者が生まれ、東北大学の底力を感じています。他大学と比べて決して恵まれた環境にあったとはいえません。ですが、今のメンバーならば代替試合という形ではありますが、男女総合優勝も夢ではないと確信しています。

今年の七大戦は残念ながら代替試合となってしまう、七校全部の参加には至りませんでした。ですが、次の世代に七大戦の思いを引き継ぐ重要な大会になります。今の一年生、二年生は七大戦を知らない学年です。来年の仙台開催の七大戦での男女総合優勝に向けて、後輩たちに少しでも「チームで勝ちに行く姿勢」と「七大戦の熱い雰囲気」を感じさせる大会にしたいと思います。

OBOGの皆様をはじめ、この一年間支えてくださり、応援して下さったすべての方への感謝の思いを胸に、東北大学陸上競技部一丸となって全身全霊で臨みます！応援よろしく申し上げます。

女子主将を務めております、小川明音です。日頃より陸上競技部の活動を支えてくださっている OBOG の皆様に感謝申し上げます。このコロナ禍において、私たちは多くの支えがあってこそ競技に打ち込むことができるのだと改めて実感しております。

昨年度の 7 大戦中止の知らせを聞いた時、それを 1 番の目標にしていた者たちは悔しく、立ち直れないほどの衝撃を受ける部員もいました。それほどまでに 7 大戦の存在は私たちにとって大きなものでした。そのような中でも、主将、各パートキャプテンを中心になんとか次の 7 大戦にむけ、限られた環境の中最大限の練習ができるよう、環境づくりに専念してきました。オンラインでの筋トレを取り入れ仲間と競い合える場を作ったパートもあれば、ミーティングを増やしメンバー同士の意見交換を活発にしたパートもあります。我々女子部員は、定期的なオンラインミーティングを通し、目標や現状を共有することでお互いを鼓舞してきました。部全体が仲間との結びつきを求めた 1 年間だったと、自身を持って言えます。

コロナ禍での 7 大戦代替試合は、2 年前までの大会のようにはいかない面も多いでしょう。それでもこの 1 年間、できることは何か、必死に考え努力を積んできた私たちにとっては、これまでとは違う大きな意味を持ちます。チーム一丸となり苦難を乗り越えてきたことを証明する絶好の舞台となるからです。来年度本戦での男女総合優勝、女子 4 連覇に向けてのステップとして、また、これまで支えてくださった多くの方々への恩返しの気持ちも込めて、チーム一同、全力で戦います！